

東京オリンピックの 年に祖父が創業。

私はいま国際会議における同時通訳システムのサービスを提供する「株式会社放送サービスセンター」の責任者として約80名のスタッフの陣頭指揮をとっています。もうすこし詳しく説明すると日本で開催される大規模な国際会議やイベント、たとえばAPEC・サミット・G20・G7・万博・IMFや世界銀行の会議、オバマ元アメリカ大統領の広島訪問などの各国首脳クラスの来日、また最近では東京オリンピックなど正確で早い通訳が必要な場面において会議やコミュニケーションが円滑にすすむお手伝いをさせていただいています。またそうしたシーンで培ったノウハウをもとにセミナーや結婚式などの運営・プロデュースも手掛けています。

1964年の東京オリンピックの年に祖父が創業をしたのが弊社のはじまりです。今年で58年目をむかえました。祖父はもとともNHKの技師、戦時中には軍事情報を電報でやりとりする仕事をしていました。オリンピックを開催すると世界中から人が集まってくる。そんな人たちのためになにか役に立つことが出来ないだろうか？と考えた祖父がはじめたのがそれぞれの国のニュースや番組を聞けるようなサービスでした。海外のラジオ番組が聞けるように回線を引き、録音して番組プログラムとして流すサービスです。たとえば1チャンネルはイタリア語、2チャンネルはフランス語などのようにプログラムを作り、ホテルで聞くことができる当時は存在すらしなかった画期的な事業を立ちあげたのです。

祖父のあと、会社をついだのが父。同時通訳の仕事がはじまったのも父の代からです。祖父の代でホテルとのパイプが強くなっていた

のですが、いろいろなホテルで宿泊者向けのプログラムとか音響システムを作っているうちに国際会議が担当をしていたホテルで行われることになりました。その国際会議というのが日本ではじめて開催されることになったIMF。この場面で同時通訳システムが必要になったのですが、ホテルの音響を仕切っていた弊社がホテルからの相談を受け、国内で初となる同通機器の開発に着手し、会議を運用したのが最初です。そしてなんとか問題なく仕事を完遂することができて、いろいろな場所でのサービスを使えるようにしようと機材・人システムを整備していきました。

小さい頃から家業を 継ぐ気はなかった。

祖父・父とバトンが繋がってきたのですが、私自身は小さい頃から家業をやるつもりは一切なく、継ぐように言われたことは祖父からも父からも一度もありません。なので父の仕事内容もなんとなくで音響関係の仕事くらいしか認識がありませんでした。だから自由にいきようと思い、高校卒業後にアウトドアの専門学校にすすみました。アウトドアの専門学校ってなに？と思われると思いますが、カヌーとかキャンプ、パラグライダー、ロッククライミングを人に教えるインストラクターを養成する学校です。実は私、椎名誠さんがすごく好きなのです、小さい頃から自然が身近にある環境ではありませんでしたので逆に強い憧れをいだくようになっていました、そして椎名さんの世界に触れているうちに自分もそういうふうになりたいなと思うようになったのが理由です。そして専門学校2年目は専攻をカヌーにしてインストラクター資格をと

り、埼玉の長瀬で働きはじめました。長瀬ではカヌーだけでなく、激流をくだるラフティングのガイドもやっていました。インストラクターとして観光客に教えるわけなのですが、日によつて水流もちがえば天気もぜんぜんちがう、ライフジャケットを着ているとはいえ下手したら命の危険もあるわけです。だから当然こちらもすごく真剣になる。そんななか終わったあとお客様に「すごく楽しかった！本当にありがとう！」と言ってもらったら、アウトドアで遊ぶ楽しさを共有できた仲間のように思えて、すごくシアワセを感じていました。習得した技術を教え、教えた人もできるようになる。そして自然のなかでともに過ごす楽しさは充実感しかなくてあつという間に10年が過ぎ30歳になっていました。このまま生インストラクターとして生きたいなと思っていたとき、創業者である祖父が急逝しました。

当時会社の経営が思わしくなくなっていました。それなりに社員はいるもののファミリー企業なので母や叔母から会社のことを色々聞いているうちに、自分は戻ったほうがいいのではないかと、という気持ちになってきました。しかし当時の私はカヌーのインストラクター。父の会社のことはよく分かっていません。戻ったところで戦力になれるとは思えない。でもなんでもいから手伝えることをしようと思い、アルバイトとして父の会社に入りました。なぜアルバイトなのか？というと周りが納得するだろうと思ったからです。社長の息子というだけで社員として入っても誰も認めない。まずはアルバイトではいり周りが納得してから次を考えようと思った。父から指示をされたのは経理のアルバイト。請求書を発行したり、備品の発注とか、今から考えるとどのようなお金の流れになっているのか？を父は理解させたかったと思うのですが、1年ほどやるなかでなんとなく全体像がつかめてきました。

「何を」するかよりも「誰と」するか。

